

参考までに・・・平成30年度の実践を、3観点の指導案に直してみました。

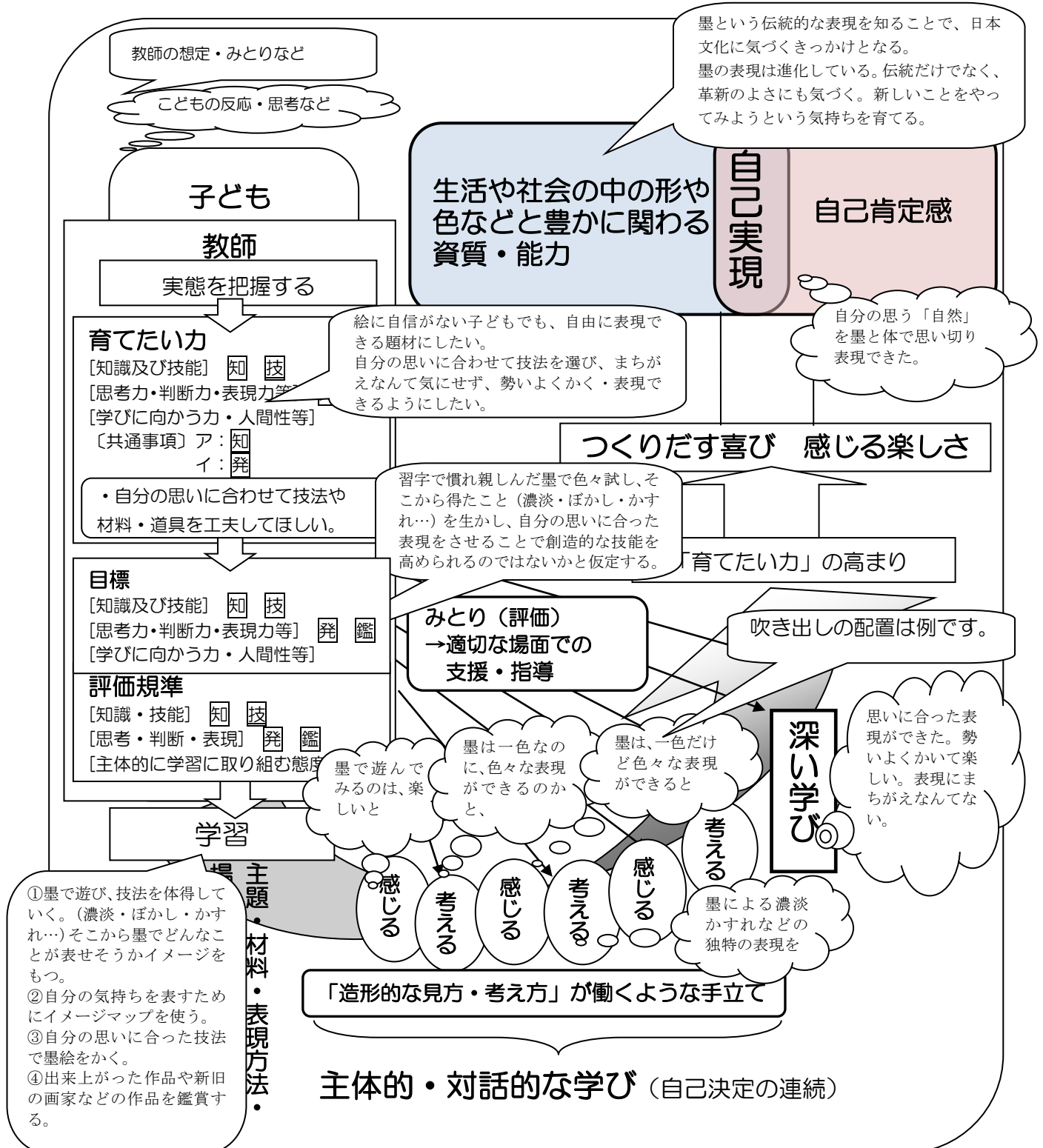
第5学年3組 図画工作科学習指導案

指導者 川崎市立新城小学校

田口 雅之

1. 題材名「LIVE SUIBOKU～生きている自然をえがく～」 A表現 絵に表す 6時間扱い

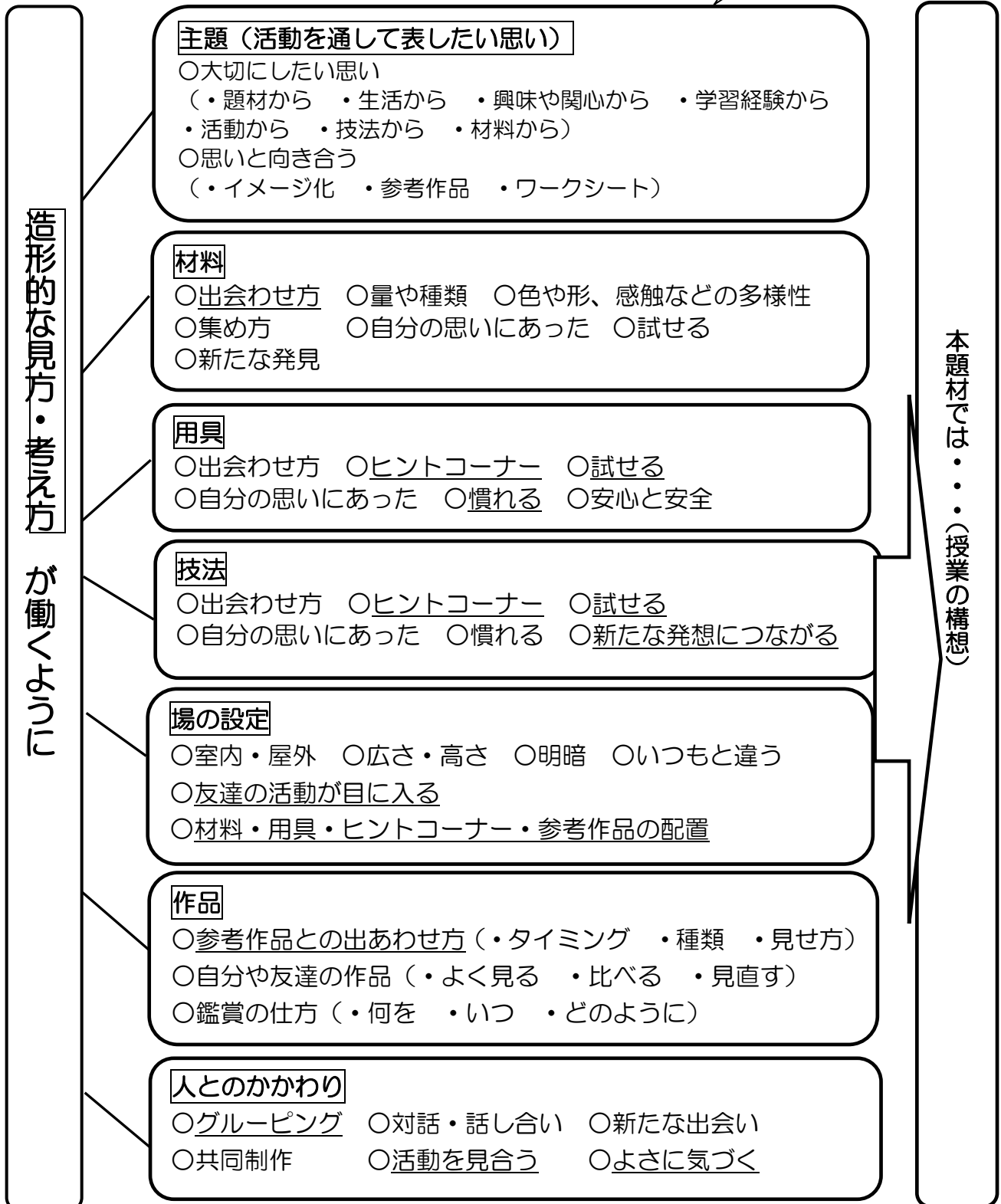
2. 「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につながる授業の構想



3. 「造形的な見方・考え方」が働くような手立て

用いた手立てに下線、新しく考えた手立てに□囲み。

- ・「造形的な見方・考え方」を働かせながら、主題・材料・技法と関わることが
- ・「造形的な見方・考え方」を働かせながら、作品をつくったりみたりできるようにするために・・・
- ・「造形的な見方・考え方」を身につけ、生活に活かせるようにするために・・・



4. 活動場所 図工室

5. 題材観

(Ⅰ) 子どもたちの実態

男女仲良く、穏やかで落ち着いた態度で過ごしている。しかし、授業中に挙手をし、意見を言うことに少なからず抵抗を感じる子も多い。いい意見をもっていても、すぐに発言できなったり、恥ずかしがったりしている子もいるように感じる。その中で、図工は好きな子が多い。自分の思いを表現することは、すばらしいことだと感じている証拠だと思う。その一方で、絵の題材を扱ったときに、多くの子が「これでいいですか?」とよく教師に聞いてくる。絵の表現に自信がないのか、「これでいい。」と自分で絵を完成させることができないことが課題と感じる。自信をもって絵に臨むために、造形遊び的に画材と触れ合ったり、何度も試してみたりする経験を積ませたい。自分の絵に自信をもつこと、「これでいい。」と満足して絵を仕上げることができるようにしたいと考える。

(Ⅱ) 題材と育てたい力

育てたい力：知識・技能

本題材では、習字でよく扱う「墨」でかく。習字で使う以外に墨にふれたことのない子どもたちにまず、墨で遊ばせることで、様々な技法にふれさせる。遊ぶ中で墨の濃淡の調整・かすれ・にじみなど多彩な表現ができることを習得させる。その後、絵に表す段階では、遊びから得た技法をもとにどんなことが表現できそうか考えさせる。墨という一色だけで、水加減や描画材を変えるだけで、様々な表現ができる。色の感じも変わってくることに気づく。また、勢いよくかいてかすれができることも味になる。間違いなんて気にせずかきことができるようになることが墨のよさである。

ここで表現する絵は、「生きている自然」である。「生きている」ということ、「自然」ということをしっかりと意識させたい。「生きている」とは、動いている、成長、変わっていくこと…「自然」とは、自分をとりまく大きなもの…というイメージを子どもから引き出ししていきたい。目の前にある自然を写生するわけではないので、自分の気持ちものせられ、水墨の抽象的な表現もねらえると考えた。(例：風ならばやさしい風、力強い風・・・)それを思い通りにならない墨を使って、子どもたちはその都度、見立てながら絵に表していく。自然教室にも行くので、自然に対して、目を向けてもらおうというねらいもある。自分の思いに合うように技法を使って、自分の考える「生きている自然」を表現できるようにしていきたい。

(Ⅲ) 造形的な見方・考え方が働くような手立て

～「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につなげるために～

① 導入で造形遊び的に墨で遊んでみる。

習字で慣れている墨を使って、まず遊んでみる。水の加減で濃淡ができたり、ぼかしができたりすることや、描画材によって様々な表現ができることを知る。そのためにこちらは、様々な描画材を用意しておく。(大小の筆、霧吹き・・・)気付いたことをみんなで共有することで、新しい表現の発見ができるようにする。

② 主題を「生きている自然」とすることで思いに合った表現ができるようにする。

新学習指導要領では、5・6年生で「どのように主題を表すか考えること」が明記される。(指導案 p5 (4) 学年の目標と共通事項参照。)そこで、主題を「生きている自然」とした。例えば、風は目に見えないが、竜巻、嵐など絵に表すことができると考えられる。実物をそっくりかくのではなく、自分の思う「生きている自然」とすることで、抽象的な表現もねらっていきたい。また、古くからある水墨画では、山水図をかくことも多いが、現代の水墨画では、旧来の技法にとらわれない自由な画風も出てきている。子どもが自由にえがくことで、伝統的な山水画と現代の水墨画との対比も生活の中でできることをねらう。

③ 作品の主題を考えるときにイメージマップを用いる。

上記であげたように5・6年生が「どのように主題を表すか考えること」を達成するために、自分でイメージをしっかりとつ時間をもちたい。そこで、イメージマップを使い、自分の思いを広げさせたい。「生きている」ということと「自然」をそれぞれどのようにとらえるか、結びつけるか、しっかりと考えていきたい。そこで持ったイメージに向けてどんな技法を使えばいいかも考えさせていきたい。

④筆以外の描画材を用意し、思いに合った表現ができるようにする。

筆以外の身近な描画材を取り入れることで、墨の様々な表現ができるようにさせたい。例えば、ストローでたらしこみ、ブラシでリズムにのって勢いよく、霧吹きによる細かい粒の表現、糸で描く・・・など、自分の思いに合った表現を選べるようにする。ここでは、まちがえですら味になることを理解させる。

⑤ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。

子どもたちが見つけた技法や子どもが見つけられなかった技法を教師が紹介し、そのまま掲示することで、どんな表現ができるかすぐにわかるようにする。その中から自分の思いに合う技法を選べるようにする。

⑥墨の濃淡を確認するために、試しの紙を用意し、試しの時間を確保する。

墨は思い通りに濃淡がでない。また筆の書き味もちがってくる。自信をもって表現できるよう試しの紙を用意し、納得できるまで試せるようにする。また、そのための時間をしっかりと保障する。

⑦作品をつくる時間に制限を設ける。そのために音楽を用いる。

水墨画をつくる際には、思い切りも必要である。思い通りにならなかったり、水が乾かなかったりすることもある。しかし、制限時間を設けることで、集中してその時間、作品に向き合えるようにしたい。そのために音楽を流している間は、集中することを伝える。時間内に終わってしまった場合は、手を止めることも伝える。水墨画では、余白も大事だということも考えさせたい。

⑧新旧の水墨画を鑑賞し、表現の進化やそこに表された思いを感じ取らせる。

水墨画は古くから日本に伝えられている。②でも述べたが、古くから山水画も多くかかっている。そこで、昔からある作品と現代の作家の作品を見比べて鑑賞することで、水墨の伝統的な技法と新しい表現を感じ取らせ、自分の表現や生活や社会の中での水墨表現の魅力に気付かせたい。

(Ⅳ) 学年の目標

＜第5学年及び第6学年＞

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|--|--|--|
| (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。 | (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 | (3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 |

(Ⅴ) 各学年の内容及び共通事項

| | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---------|--|---|--|
| A 表現 | (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技法を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。(技能) | (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。(発想・構想) | 内容の中には、「学びに向かう力、人間性等」にあたる内容はないので、各学年の目標を参考にする。 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 |
| B 鑑賞 | | (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を広げること。(鑑賞) | |
| 共通事項 | 〔共通事項〕ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。(知識) | 〔共通事項〕イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。 | |

(Ⅴ) 題材の目標

(1) 知識及び技能に関する題材の目標

- 自分の感覚や行為を通して、水墨による表現の形や色などの造形的な特徴を理解する。(知識)
- 水墨の表現を学び、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(技能)

(2) 思考力、判断力、表現力等に関する題材の目標

- 水墨の筆あとや濃淡などをもとに、自分のイメージをもちながら、表したいことをみつけたり、好きな筆あとや濃淡を選んだりして、どのように主題を表すか考える。(発想や構想に関する資質・能力)
- 自分や友達、先哲の作品から造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方・考え方を広げる。(鑑賞に関する資質・能力)

(3) 学びに向かう力、人間性等に関する題材の目標

- 主体的に水墨で表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

6. 題材の評価規準 ～ 3つの観点から育てたい力を考える ～

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <p>知 自分の感覚や行為を通して、水墨の筆あとや濃淡（形や色）の感じに気付いている。</p> <p>技 水墨や筆の扱いに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚を働かせ、表したいことをもとに表し方を工夫して表している。</p> | <p>発 水墨の筆あとや濃淡などをもとに、自分のイメージをもちながら、表したいことをみつけたら、好きな筆あとや濃淡を選んだりして、どのように主題を表すか考えている。</p> <p>鑑 自分や友達、先哲の作品から造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方・考え方を広げている。</p> | <p>主体的に学習に取り組む態度 つくりだす喜びを味わい、主体的に、楽しく水墨で表したり、友達の作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> |

<児童による個人内評価>

○主体的に水墨で表現したり、自分や友達、先哲の作品を鑑賞したりする活動に取り組み、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

7. 準備

- [教師] 障子紙、様々な描画材（大小の筆、霧吹き、ストロー、ローラー・・・）
- [子ども] 筆 墨汁

8. 指導と評価計画（6時間扱い）

| | | | |
|-----------------------|--|--|--|
| | ◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応 | ○教師のかかわり・手だて ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て | 評価規準□と 評価方法（ ） |
| 1 次 9 0 分 | ◇「墨」を扱う題材と知る。 ・どんな絵をかくのかな。 ・墨は、習字で使ったことがある。絵をかいてもいいんだ。 | ○「墨」のよさを伝えるためにいくつか参考作品を見せる。 ○どうすれば、墨一色で様々な表現ができるのかを考えさせる。 | |
| 墨のよさを味わおう。 | | | |
| | ◇墨で遊びながら、どのような表現が可能か、感じる。 ・スプレーで墨をふきかけるとどのようになるかな。 ・ぼかしたり、かすれさせたりするためには、水の量を調整するのかな。 ・大きな筆でかきたい。 ・足や手を使ってかいてみよう。 | ◎大きな障子紙や描画材を用意し、墨で思い切り遊べるようにする。 ○グループ活動を取り入れることによって、友達の表現のおもしろさやよさを発見し、自分でも試せるようにする。 ○どんな技法ができたか、鑑賞させる。 | ☑ つくりだす喜びを味わい、楽しく水墨で表したり、友達の作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている (発言・つぶやき) |
| 2 次 9 0 分 | 水墨で自然をどのように表現できるか考えよう | | |
| | ◇前回、行った水墨遊びから、どんなものを表せそうか考える。 ◇試しに全員同じテーマで「生きている自然」をえがく。 ◇鑑賞をすることで、友達の表現のよさに気づく。 ◇次時に向けて、自分の思う「生きている自然」を考える。 ◇自分の思いにあった技法を考える。 ・風を表したいから、勢いよく筆を動かしたい。 | ○前回、行った水墨遊びからどのようなものがえがけそうか、考えさせる。 (雨・風・霞・・・) ○試しに一つ、同じテーマで絵をかく。 (例：風 ⇒ 嵐 優しい風 台風…) 思い思いにかかせる。 ◎ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。 ○出来上がった作品を見て、鑑賞をさせる。よい表現はとりあげる。 ○同じ「風」を表しても、人によって様々な表現・技法を使っていることに気付かせる。 ○自分の思う「生きている自然」とはどんなものか考えさせる。 ◎主題を「生きている自然」とすることで思いに合った表現ができるようにする。 ◎自分の作品の主題を考えるときにイメージマップを用いる。 | ☑ 自分や友達、先哲の作品から造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方・考え方を広げている。 (発言・つぶやき) ☑ 水墨の筆あとや濃淡などをもとに、自分のイメージをもちながら、表したいことをみつけたり、好きな筆あとや濃淡を選んだりして、どのように表すか考えている。 (活動・作品) |

| | | | |
|---------------------------------------|--|--|---|
| | <p style="text-align: center;">LIVE SUIBOKU～「生きている自然」を墨で表現しよう～</p> <p>◇活動の流れを知る。</p> <p>◇本番の紙に表す前に、自分で墨の濃淡を調整したり、筆による表現のちがいを試したり、確認する。</p> <p>◇練習してできあがったものを見合う。</p> <p>◇自分の思う「生きている自然」をかく ・朝焼けを墨で表すにはどうしよう。 ・波を表現するにはどんな筆でかこうか。</p> <p>◇出来上がった作品を鑑賞する。 ・この作品からは、やわらかい感じがする。 ・筆で勢いよくかいている。どんな気持ちでかいたんだろう。</p> | <p>○自分の考える「生きている自然」を表すことを確認する。</p> <p>◎墨の濃淡や筆の太さなどを確認するために、試しの紙（半紙・新聞紙）を用意し、練習する時間を確保する。</p> <p>○練習をしたら、かいた様子を見合う時間をとる。よい表現は取り上げる。</p> <p>○本番の紙に一発勝負でかくことを伝える。（時間内にかくこと、時間より早く終わってもよいことを伝える。）</p> <p>◎作品をつくる時間に制限を設ける。そのために音楽を用いる。</p> <p>◎筆以外の描画材を用意し、思いに合った表現ができるようにする。</p> <p>◎ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。</p> <p>○出来上がった作品を見て、鑑賞をさせる。よい表現はとりあげる。</p> | <p>主 つくりだす喜びを味わい、楽しく水墨で表したり、友達の作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている</p> <p>技 水墨や筆の扱いに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚を働かせ、表したいことをもとに表し方を工夫して表している。 （活動・作品）</p> <p>鑑 自分や友達、先哲の作品から造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方・考え方を広げている。 （発言・つぶやき）</p> |
| <p>3 次 9 0 分</p> | <p style="text-align: center;">水墨の世界を味わって～学習を振り返ろう～</p> <p>◇学級や学年の作品を鑑賞する。 ・乾くと、濃淡がはっきり出るね。</p> <p>◇新旧の画家による水墨画の作品の鑑賞をする。 ・昔の画家の水墨画は、細かいところがはっきりかかっている。濃淡がわかりやすい。</p> <p>◇鑑賞してわかったことをワークシートにまとめる。</p> | <p>○前時に完成させ、乾いた水墨画を鑑賞し合う。</p> <p>◎新旧の水墨画を鑑賞し、表現の進化やそこに表された思いを感じ取らせる。</p> <p>○授業の振り返りをする。この授業でどんな学びがあったのか、振り返らせる。</p> | <p>鑑 自分や友達、先哲の作品から造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方・考え方を広げている。 （発言・つぶやき・ワークシート）</p> |

9. 本時の活動（4/6時間 45分）

（Ⅰ）本時の目標

○水墨の表現を学び、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。（技能）

（Ⅱ）本時の展開

| | | |
|--|---|---|
| <p>◇子どもの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される子どもの反応 | <p>○教師のかかわり・手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て | <p>評価規準口と評価方法 ()</p> |
| <p>LIVE SUIBOKU～「生きている自然」を墨で表現しよう～</p> | | |
| <p>◇活動の流れを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでかいたイメージマップをもとに表したいことをかこう。 <p>◇本番の紙に表す前に、自分で墨の濃淡を調整したり、筆による表現のちがいを試したり、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆の太さを決めよう。 ・墨の濃淡はこれでいいかな。 ・この道具でかくと、どんな表現になるんだろう。 <p>◇練習してできあがったものを見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勢いよくかいていて、いいな。 ・どんな道具でかいたんだろう。聞いてみたい。 <p>◇自分の思う「生きている自然」をかく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝焼けを墨で表すにはどうしよう。 ・波を表現するにはどんな筆でかこうか。 ・木の伸びている感じを表すために墨の濃さを考えよう。 <p>◇出来上がった作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品からは、やわらかい感じがする。 ・筆で勢いよくかいている。どんな気持ちでかいたんだろう。 <p>◇片づけをする。</p> | <p>○自分の考える「生きている自然」を表すことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎墨の濃淡や筆の太さなどを確認するために、試しの紙（半紙・新聞紙）を用意し、練習する時間を確保する。 <div data-bbox="596 770 1031 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">半紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">新聞紙</div> </div> </div> <p>○練習をしたら、かいた様子を見合う時間をとる。よい表現は取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本番用紙に一発勝負でかくことを伝える。（時間内にかくこと、時間より早く終わってもよいことを伝える。）墨の濃淡や筆の太さを確認するための練習用紙も用意させる。 <div data-bbox="584 1339 1031 1514" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本番 用紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">半紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">新聞紙</div> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎作品をつくる時間に制限を設ける。そのために音楽を用いる。 ◎筆以外の描画材を用意し、思いに合った表現ができるようにする。 ◎ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。 <p>○出来上がった作品を見て、鑑賞をさせる。よい表現はとりあげる。</p> | <p>主 つくりだす喜びを味わい、楽しく水墨で表したり、友達の作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている (活動・発言)</p> <p>技 水墨や筆の扱いに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚を働かせ、表したいことをもとに表し方を工夫して表している。 (活動・作品)</p> <p>鑑 自分や友達、先哲の作品から造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方・考え方を広げている。 (発言・つぶやき)</p> |

